

野菜の展望

今月は本格的な秋冬野菜の出荷時期を迎えます。今年度に於いては幸いにも台風の被害はありませんが、北海道中心に7、8月の干ばつの影響により、品目によっては端境期の発生が懸念されます。ただし秋冬作産地上移行後は秋冬露地作を中心に、安定かつ潤沢な入荷が見込まれています。根菜類の大根は石川産から中旬以降千葉産中心へと切り替わります。加賀野菜のひとつでもある、打木源助大根は11月中旬は連日入荷の予定です。人参は上旬まで北海道産中心に富山産の出回りとなりますが、それ以降は石川・岐阜産が入荷します。小かぶは金沢市砂丘地産が個人物主力にゆるやかに増加する見込みです。蓮根・甘藷については石川産を中心に茨城産の入荷となり、甘藷はやや小玉傾向となります。里芋については福井産を中心に各産地からの出回りがあり、石川産については伝燈寺イモが少量ながら入荷があります。各産地ともに平年並みの肥大と見られます。

果菜類ですが、胡瓜は上旬が石川・群馬・高知産、中旬以降は高知産が増量で中心産地となり、下旬より愛知産が加わります。南瓜はニューカレドニア産、続いてメキシコ産が加わり、下旬から石川産の抑制物の入荷があります。茄子は高知産主体で長茄子については熊本・福岡からの入荷があります。トマトは石川・愛知産の安定した入荷がありますが、石川産は徐々に減少に向かいます。ミニトマトは愛知産主体に入荷は順調に推移すると思われます。ピーマンは高知産を主体に鹿児島産の入荷となります。

葉茎菜類の白菜は石川・茨城産の入荷となります。キャベツは愛知主体に石川・長野・茨城からの出回りがあります。葱は石川産の束物、群馬・埼玉産の関東産地と東北産地のバラ詰品の入荷があり、関東産は平年並みの入荷が予想されます。小松菜は石川産を中心に福岡・関東産の入荷です。ブロッコリーは石川産を中心に高知産および長崎等の九州産の入荷となります。

菌茸類の椎茸は石川産を主体に徳島・富山・長野・兵庫等の菌床物と下旬より石川産原木物の入荷で、需要期を迎えて数量は増量となります。えのき・なめこ・しめじ・舞茸等のきのこ類についても、各農協の系統物や企業物（ホクト・雪国・ミスズライフ）を含めて、安定入荷となります。季節物の松茸は地物の石川産が中旬でほぼ終了すると見込まれ、同様に中国産も中旬にて終了予定となっています。アメリカ産については例年通りで12月までの入荷が予定されています。

土物類では馬鈴薯・メークインが北海道産中心の出回りとなりますが、生育期の干ばつによる生育不良の為、馬鈴薯類全般に出荷は平年より大幅に少ない見込みです。玉葱については北海道産の入荷ですが、馬鈴薯同様の状況で、平年に比べ出荷量は激減の見込みです。長芋は北海道・青森からで、秋掘りについては北海道産が上旬、青森産は下旬からの入荷予定となっています。牛蒡は青森産中心の入荷を予定しています。生姜は高知・中国産に加え石川産の新生姜の入荷があります。

今月は各産地より秋冬野菜が潤沢に出回る月となります。各種のイベントに合わせた企画立案による販売拡大にご協力をお願いいたします。

《野菜第三部部長 杉本智則》

果実の展望

朝晩の冷え込みが一段と厳しくなり、秋冬果実は本格的な出回りシーズンを迎えます。

今月の果実は主力品目であるみかんが極早生みかんから早生みかんへと切り替わる時期となり、福岡・長崎・和歌山・愛媛等の各産地から入荷があります。今年は裏年にあたり、出荷量は前年より少ないです。玉流れについてはL玉中心になると予想されます。

柿については能登町・かほく市を中心に金沢近郊の内川・浅川地区等から、さわし柿・渋柿・甘柿の入荷となります。和歌山産の平核無柿は上旬にて終了見込みで、その後は、岐阜・奈良産の富有柿の販売予定となります。

りんごはふじの出荷が本格化する時期に入りますが、他にジョナゴールド・王林・紅玉といった品種も加わり、青森・長野・山形等の各産地からの出回りで、長野については春先の雷害の影響により、数量減の見通しです。

ブドウ類は長野産の露地作巨峰やシャインマスカット、岡山産の紫苑・コールマン等の入荷があり、入荷量については前年よりやや減少すると予想されます。

瓜類では静岡産のマスクメロンと高知産のアールスメロン等が出回ります。作付面積が減少しているために入荷も減少となります。

莓は愛知産を中心として、9月の好天により昨年より早い出荷となり、中旬より順調な入荷になると予想されます。

洋梨は山形産のラ・フランス中心の入荷で、18玉・16玉の小玉中心の玉流れとなります。

輸入果実のバナナはフィリピン産中心に南米産の入荷で、各産地ともに順調な入荷が予想されます。ハイランド商品も入荷量が回復してきました。価格については前年よりやや高値にて推移するものと思われます。オレンジは前半がオーストラリア産・ネーブル種、後半はバレンシア種が入荷の柱となり、玉流れについては72玉、88玉が中心になると予想されます。グレープフルーツは南アフリカ産と下旬頃にイスラエル産の入荷です。レモンはチリ産の入荷が見込まれます。パインはフィリピン産のゴールデンパイン・スウィーティオ種の順調な入荷が予想されます。キウイフルーツはニュージーランド産グリーン及びアメリカ産ゴールドの安定した入荷が見込まれます。その他にパイア・アボカド・マンゴー・ザクロ・カルフォルニア産レッドグローブ・シードレス（種無）ブドウ等が順調に入荷します。

以上、今月も尚一層の拡販を宜しくお願い致します。

《果実部部長 荒木 智》